

28 街路事業の推進について

(国土交通省関係)

要望内容

街路事業の財源確保

(要 旨)

急速な高齢化の進展や人口減少にも直面する中、持続的に都市の活力を維持・向上していくためには、都市機能を集積させる「集約型都市構造」への転換が求められており、コンパクトなまちづくりを推進する必要があります。

このため、本市では、都心や拠点地区間の連携を強化し、円滑な都市活動と安全・快適な生活を支える街路の整備を進めており、交通の円滑化や踏切の安全確保などを図る連続立体交差事業や、道路空間を車中心から人中心へ転換する事業に重点的に取り組んでいます。

さらに、近年、多発する豪雨災害などへの対応のため、防災・減災に資する緊急輸送道路の整備や無電柱化、また、市民の安全・安心な日常生活を確保するため、通学路等の交通安全対策などについて、「選択と集中」を図り、整備効果の高い路線から整備を進めています。

つきましては、これら街路事業の着実な推進のための財源確保について、格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

街路事業の概要

区 分	事業期間	事業区間 延長	道路幅員	総事業費	令和5年度 末の進捗率 (見込み)	令和6年度 以降 降 残事業費
連続立体交差事業による安全・安心な地域づくりの推進						
J R 山陽本線 (東部地区連続 立体交差事業)	平成5年度～ 令和20年度頃	(全体) 5,100m (市域) 1,927m	—	(全体) 915億円 (市域) 370億円	19.4%	298億3,300万円
※ 事業費には関連街路分を含んでいる。						
広島都心地区(Ⅱ期)都市再生整備計画						
広島駅・市民球 場間ペDESTリ アンデッキ	平成22年度～ 令和6年度	110m	4m	10億円	100.0%	—
南1区19号線	平成22年度～ 令和6年度	390m	13m	7億円	66.6%	2億3,380万円
都市基盤となる骨格道路等の整備						
中筋温品線	平成12年度～ 令和10年度頃	2,070m	14～47m	236億円	56.2%	103億3,626万円
吉島観音線ほか1路線	平成7年度～ 令和8年度	1,190m	20～30m	86億円	91.8%	7億760万円
段原蟹屋線ほか1路線	平成7年度～ 令和8年度	633m	25～32m	73億円	94.8%	3億7,796万円
無電柱化の推進による防災や安全・円滑な交通の確保						
霞庚午線	平成10年度～ 令和10年度頃	1,360m	30m	172億円	98.5%	2億5,319万円
東雲大州線ほか1路線	平成20年度～ 令和10年度頃	590m	25～27m	79億円	93.3%	5億2,703万円
通学路等における交通安全対策の推進						
長東八木線 (4工区)	平成29年度～ 令和10年度頃	480m	22～25m	31億円	41.8%	18億335万円
矢野中央線	平成27年度～ 令和8年度	366m	17m	21億円	76.7%	4億8,741万円
畑口寺田線ほか1路線	平成27年度～ 令和10年度頃	880m	16～18m	33億円	55.6%	14億6,448万円
安全・安心なまちづくりを推進する道路等の整備						
駅前線	平成8年度～ 令和7年度	977m	14m	42億円	73.5%	11億1,250万円
花都川線	平成9年度～ 令和10年度頃	320m	16m	16億円	70.7%	4億6,877万円
山の手線	平成9年度～ 令和10年度頃	1,050m	18m	57億円	26.4%	41億9,424万円
青崎畝線	平成5年度～ 令和20年度頃	1,466m	16m	51億円	53.7%	23億5,900万円